

氏名	岡本 亜紀
授与した学位	博士
専攻分野の名称	看護学
学位授与番号	博甲第5766号
学位授与の日付	平成30年3月23日
学位授与の要件	保健学研究科 保健学専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文の題目	Evaluation of an experience-based program to understand the concept of recovery among hospital-based psychiatric nurses (病院で働く精神科看護師がリカバリーの概念を理解するための体験プログラムの評価)
論文審査委員	教授 西田眞壽美 教授 中塚幹也 准教授 近藤真紀子

学位論文内容の要旨

主観的、個人的観点からみたリカバリーの概念について、病院看護師の理解を促進するための体験プログラム（講義、包括型地域生活支援プログラム訪問実習、グループワーク）を実施、評価した。精神科病棟のある5施設から、看護師9人を最終参加者とした。対象内比較分析の結果、プログラム後のRecovery Knowledge Inventory 得点は有意に高かった ($p=.004$)。質的記述的研究の結果、リカバリー志向の訪問実習の体験から得たカテゴリーは、【服薬なしでどんなに精神症状が悪くても地域・家庭で生活するためのニーズに寄り添い続ける】、【本来いる場で本来あるべき姿のその人らしく生活している姿を見る】、【意向を大切にすることがいつか実を結ぶ地道な関係づくり】【家族の気持ちをじっくり聞くことで本人と家族の生活上の身近な存在になる】であった。以上より、リカバリー概念の理解促進およびリカバリーを目標とした実践方法の具体化と、疾病モデルに偏りがちな病院での看護援助の限界に気づく効果があると考えられた。

論文審査結果の要旨

本論文は、精神科を有する病院に勤務する看護師9人を対象として、「リカバリー」の概念を理解するための体験プログラムを実施し、その効果を定量・定性的分析手法を用いて評価したものである。このプログラムは、慢性精神疾患を抱える長期入院者が地域に移行し生活を維持していくことを支援するために、リカバリーを目的とした包括型地域生活支援プログラムの体験型研修として企画実施された。

プログラム実施前後の比較分析の結果、Recovery Knowledge Inventory 得点が有意に高く、自由記述の質的分析では概念の理解に関する4つのカテゴリーが抽出された。以上より、疾病モデルに偏りがちな病院におけるリカバリーを目標とした実践方法の具体化と看護援助の方向づけとなる効果があると示唆された。

本研究はプログラム参加者が少數であること、プログラム評価の理論と方法の裏づけが十分とは言い難いことなど、方法上の限界と課題が残された。しかし、精神科の病院看護師が入院医療中心から地域生活中心への支援を目指すうえで有用な指針のひとつを明確にした。今後の目標設定と体験プログラムの有効性が示唆された。

以上により、本研究は学位論文として基礎的な成果を含む研究と評価し、博士（看護学）として学力および知識を有するものと認め、最終試験を合格と判定した。